





# 2023年3月期 決算説明資料

2023年5月

上場市場：東証スタンダード市場  
証券コード：9083



 2023年3月期 決算概要

 2024年3月期 業績予想

 株主還元



# 2023年3月期 決算概要

2023年3月期は、新型コロナウイルス感染症第7波（7月以降）および第8波（11月以降）による行動自粛の影響はあったものの、国からの行動制限が課されなかったことから、経済活動が回復基調となり、前年同期比は増収・営業利益で増益となった。

<p>自動車運送 (乗合バス事業)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バスは、一部減便は実施したものの、利用者数（ICカード利用実績）が前年同期比+11.8%</li> <li>・高速バスは、淡路島線の堅調な推移や、四国線・中国ハイウェイ線の復便、大阪国際空港リムジンバス線の再開（関空線は運休中）により、輸送人員が前年同期比+42.0%</li> </ul>
<p>不動産</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賃貸は、2022年3月に売却した本社兼賃貸ビル分の賃貸料が減少</li> <li>・住宅は、注文住宅の引き渡し増により売上が増加</li> <li>・建設は、前期の大規模案件の反動により売上が減少</li> </ul>
<p>旅行貸切</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募集型企画旅行（自社ツアー）は、行動制限が発出・適用された前期に比べ催行数が大幅に増加</li> <li>・貸切バスは、修学旅行など学生団体やツアーの受注が増加</li> <li>・前期は皆無であった訪日外国人向けツアーが下期に急増</li> </ul>

(百万円)	2023年3月期 実績	2022年3月期 実績	前年同期比		2023/3期 業績予想 (2023/2/13公表)	
			増減額	増減率	予想値	増減額
売上高	<b>44,820</b>	38,814	+6,006	+15.5%	44,300	+520
営業利益	<b>2,362</b>	300	+2,062	+686.5%	1,810	+552
経常利益	<b>2,622</b>	1,079	+1,543	+143.0%	2,080	+542
売上高経常利益率	<b>5.9%</b>	2.8%	+3.1pt	—	4.7%	+1.2pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>1,766</b>	2,137	△371	△17.4%	1,260	+506
1株当たり当期純利益	<b>293.30円</b>	354.90円	△61.60円	△17.4%	209.26円	+84.04円

# 業績（セグメント別）

(百万円)	2023年3月期 実績	2022年3月期 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	<b>44,820</b>	<b>38,814</b>	<b>+6,006</b>	<b>+15.5%</b>
※ <sup>1</sup> 自動車運送	21,202	18,904	+2,297	+12.2%
車両物販・整備	6,827	6,448	+378	+5.9%
不動産	4,547	4,320	+227	+5.3%
レジャーサービス	4,028	3,748	+280	+7.5%
旅行貸切	4,432	2,755	+1,676	+60.8%
※ <sup>2</sup> その他	3,782	2,637	+1,145	+43.4%
営業利益	<b>2,362</b>	<b>300</b>	<b>+2,062</b>	<b>+686.5%</b>
※ <sup>1</sup> 自動車運送	630	△647	+1,278	—
車両物販・整備	582	428	+154	+36.0%
不動産	1,305	1,558	△252	△16.2%
レジャーサービス	△44	△254	+209	—
旅行貸切	20	△660	+680	—
※ <sup>2</sup> その他	△134	△73	△61	—
(セグメント間取引消去)	2	△50	+53	—

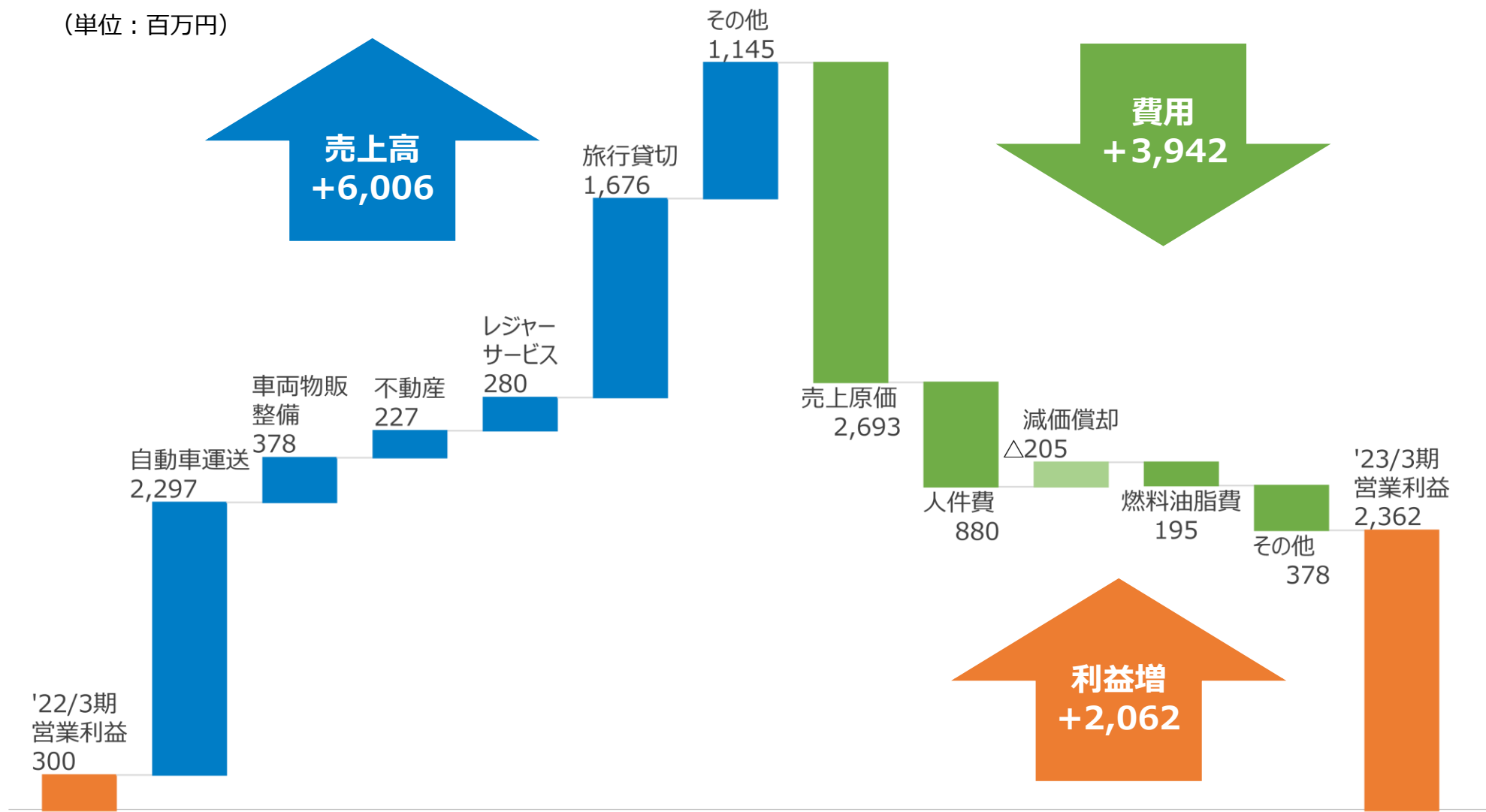
セグメントの見直しにより、前期までの「業務受託」のうち

※<sup>1</sup>自動車運送…車両管理を当期より自動車運送セグメントへ変更している。（比較も変更後の数値を適用）

※<sup>2</sup>その他…経営受託、索道業を当期よりその他セグメントへ変更している。（比較も変更後の数値を適用）

# 営業利益 増減要因

(単位：百万円)



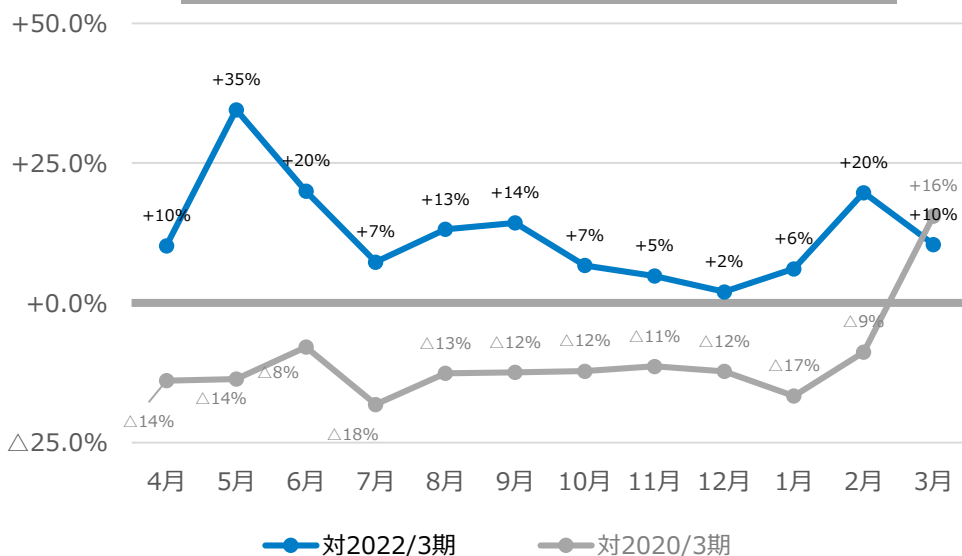
# セグメント概要（自動車運送）

- 全体的な行動制限の緩和による利用者数の回復、4月から神戸市内観光路線「CITY LOOP」の運行、徳用運賃・定期券の割引率見直しと高速バスの運賃改定などにより、増収・黒字転換
- 新車購入を一時凍結し、減価償却費の減少を図ったものの、運行休止便再開などによる走行キロの増加と燃料単価の高止まりによる燃料油脂費が増加

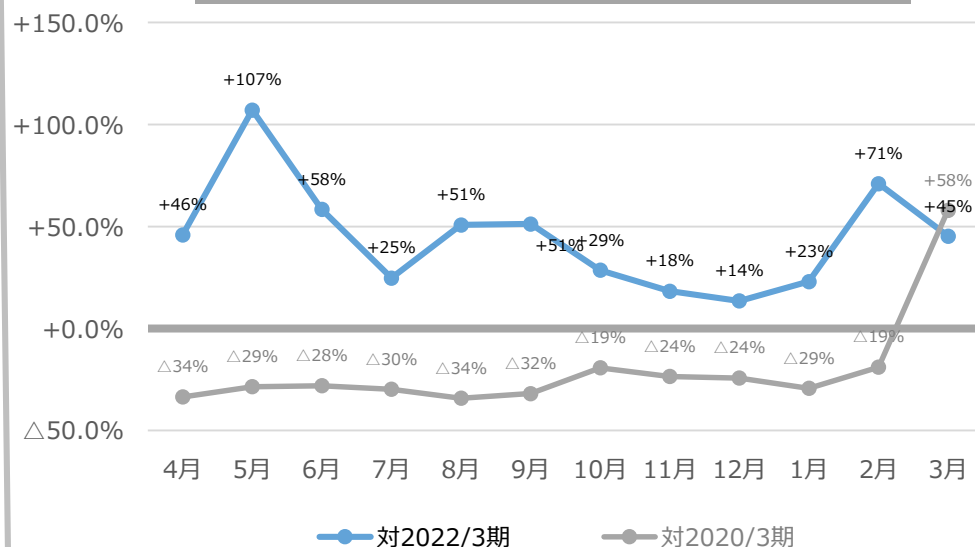
(百万円)	2023/3期			2022/3期			前年同期比	
	上期	下期	計	上期	下期	計	増減額	増減率
売上高	9,337	11,865	21,202	7,993	10,911	18,904	+2,297	+12.2%
営業利益	△757	1,387	630	△1,493	846	△647	+1,278	-

※当期より、車両管理を「その他（前期は「業務受託）」よりセグメント変更しており、2022/3期の数値も変更後で表示

路線バス ICカード利用人員対比  
(対 2022/3期・2020/3期)



高速バス 利用人員対比  
(対 2022/3期・2020/3期)





# セグメント概要（車両物販・整備）

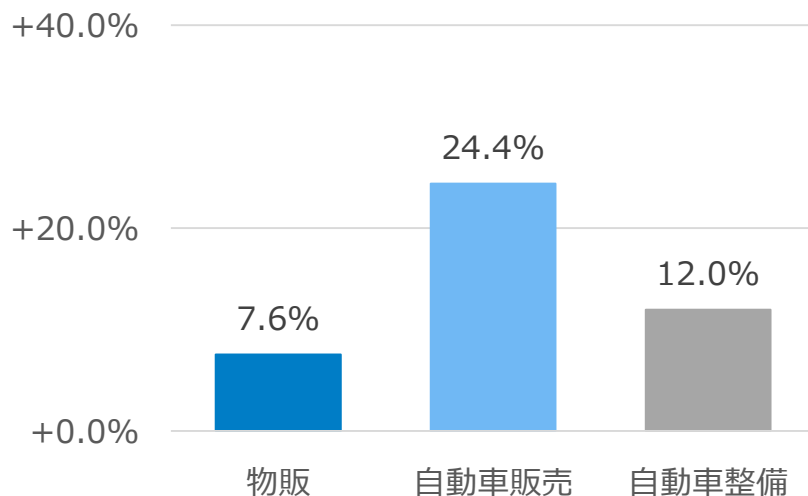
■ 車両物販は、新車の供給不足に伴う車両の使用年数長期化や稼働回復により、補修用整備部品の販売が増加

■ 整備は、車検台数の増加（+2.2%）や高額な修理、車体改造の受注が増加

■ 4月に姫路工場を新設移転し、最新鋭設備にて稼働を開始

(百万円)	2023/3期			2022/3期			前年同期比	
	上期	下期	計	上期	下期	計	増減額	増減率
売上高	3,277	3,550	6,827	3,113	3,335	6,448	+378	+5.9%
営業利益	240	342	582	137	291	428	+154	+36.0%

部門ごとの前年同期比較



神姫商工 新 姫路工場（姫路東出張所に併設）

■ 賃貸は、当期に取得した倉敷市商業施設用地・松山市スポーツ施設用地による賃貸料増はあったものの、2022年3月に売却した本社兼賃貸ビルの賃貸料減少が大きく影響し、営業利益で減益

■ 住宅販売は、注文住宅+14.3%と増収。7月に住宅展示場でのモデルハウスをオープン

■ 建設は、前期に完成した神姫バス営業所2棟の反動により△19.5%の減収

(百万円)	2023/3期			2022/3期			前年同期比	
	上期	下期	計	上期	下期	計	増減額	増減率
売上高	1,842	2,705	4,547	1,894	2,426	4,320	+227	+5.3%
営業利益	587	718	1,305	720	838	1,558	△252	△16.2%



商業施設用地（倉敷市平田）

商業施設用地(倉敷市平田 '22/6取得)  
スポーツ施設用地(松山市東石井 '23/1取得)



サ高住施設(姫路市亀山 '23/3取得)



新モデルハウス“大人かわいい1/2平屋”  
(ABCハウジング加古川住宅公園にオープン)

# セグメント概要（レジャーサービス）

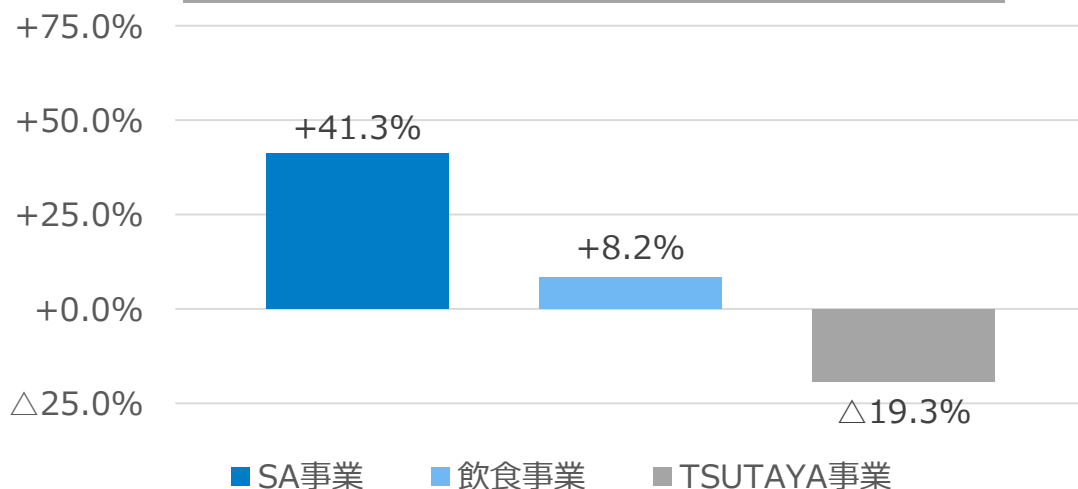
サービスエリアは、中国道（吹田JCT～中国池田IC間）リニューアル工事による影響はあったものの、GWやお盆などのハイシーズンを中心に来店客数が前年同期比+30.0%となり増収

飲食店は、前期末の4店舗閉店と新型コロナ第7波の影響を受けたものの、全体的な行動制限の緩和による既存店の売上増(前年同期比+15.8%)や新業態(2店舗)のオープンにより増収

TSUTAYA(FC)は、4月に1店舗閉店（現在3店舗）により減収

(百万円)	2023/3期			2022/3期			前年同期比	
	上期	下期	計	上期	下期	計	増減額	増減率
売上高	1,986	2,042	4,028	1,785	1,963	3,748	+280	+7.5%
営業利益	△30	△14	△44	△135	△119	△254	+209	-

事業別売上高 前年同期比



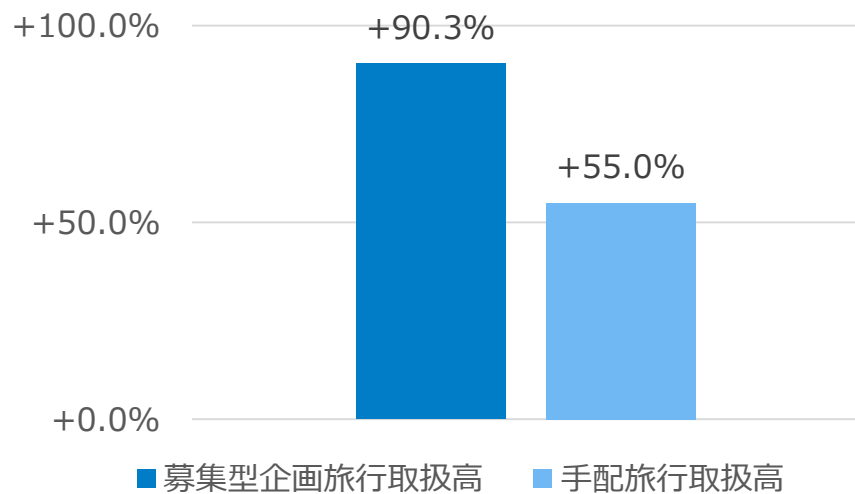
炭火焼き豚丼専門店「豚小家」新規オープン  
 (2022年7月 大阪・天神橋店)  
 (2022年11月 神戸・三宮本店)

旅行は、募集型企画旅行において全期間行動制限によるツアー催行中止がなくなり大きく増収  
また、手配旅行も修学旅行などの学生団体が回復し、増収・黒字転換

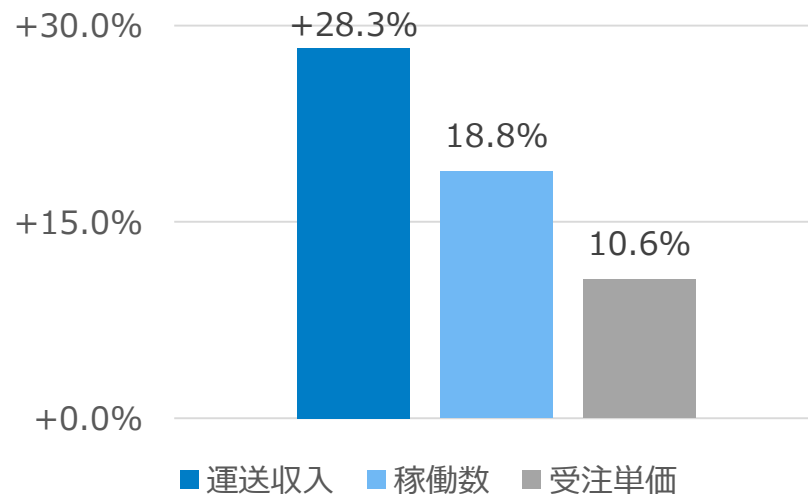
貸切バスは、ツアー受注において稼働数（+106.9%）・単価（+16.2%）の増加が寄与

(百万円)	2023/3期			2022/3期			前年同期比	
	上期	下期	計	上期	下期	計	増減額	増減率
売上高	1,733	2,699	4,432	846	1,909	2,755	+1,676	+60.8%
営業利益	△144	164	20	△539	△121	△660	+680	-

旅行取扱 前年同期比較



貸切バス稼働 前年同期比較

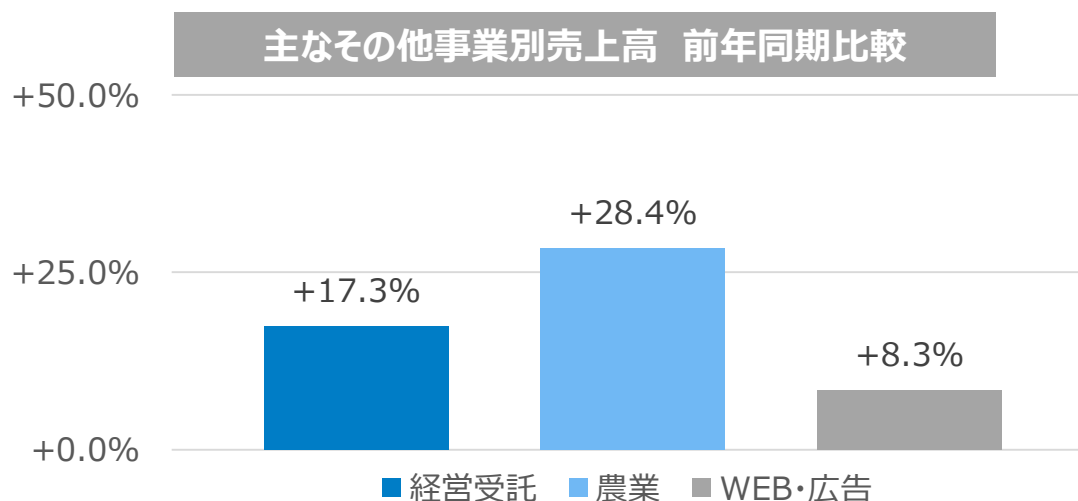


■ 経営受託（公共施設管理）は、前期に緊急事態宣言等で営業休止した指定管理施設での利用者増や、加西市や赤穂市の施設を新規受託したことなどにより増収

■ 農業（販売・卸し）は、小売店「バスの八百屋」3店舗で日商が増加（前期比+50.6%）、また集荷場事業では、台風・大雪の影響はあったものの春・夏の好天候により増収(前期比+9.0%)

■ 当社地域の課題解決に取り組む部門として「地域事業本部」を新設し、同本部が運営するECサイトにて観光・体験コンテンツや地域特産品の販売を開始

(百万円)	2023/3期			2022/3期			前年同期比	
	上期	下期	計	上期	下期	計	増減額	増減率
売上高	1,825	1,957	3,782	1,301	1,336	2,637	+1,145	+43.4%
営業利益	△104	△30	△134	△58	△15	△73	△61	-



※保育事業は当期より連結対象、地域事業は当期より実施。

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)	2022年3月末	2023年3月末	増減額	主な要因
<b>流動資産</b>	17,261	<b>16,789</b>	△471	
現預金	10,988	<b>9,973</b>	△1,014	収益物件取得による減
売掛金	4,184	<b>5,160</b>	+976	
その他	2,089	<b>1,655</b>	△433	
<b>固定資産</b>	41,682	<b>43,838</b>	+2,155	
有形固定資産	34,309	<b>36,218</b>	+1,908	車両購入・収益物件取得による増
その他	7,372	<b>7,619</b>	+246	
<b>資産合計</b>	58,944	<b>60,627</b>	+1,683	
<b>負債</b>	15,944	<b>15,720</b>	△224	
有利子負債	4,205	<b>3,011</b>	△1,193	借入金返済による減
未払金	2,576	<b>2,689</b>	+112	
その他	9,163	<b>10,019</b>	+856	未払法人税等の増
<b>純資産</b>	42,999	<b>44,907</b>	+1,908	
<b>負債純資産計</b>	58,944	<b>60,627</b>	+1,683	
<b>※Net Cash</b>	6,783	<b>6,962</b>	+179	

※Net Cash=期末現預金－期末有利子負債残高

**自己資本比率74.1%**

■ 投資CFは収益物件などの有形固定資産購入により支出が増加したが、営業CFの回復により、2023/3期のFCFは黒字

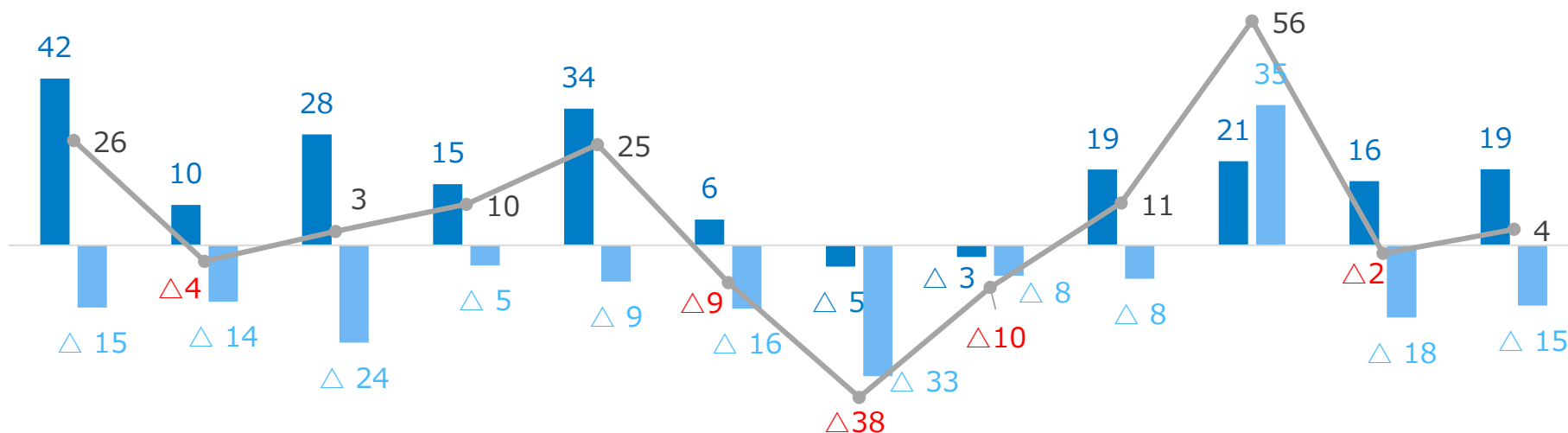
## キャッシュフロー推移

(単位：億円)

■ 営業キャッシュフロー

■ 投資キャッシュフロー

● FCF



上期

下期

上期

下期

上期

下期

上期

下期

上期

下期

上期

下期

2018/3期

2019/3期

2020/3期

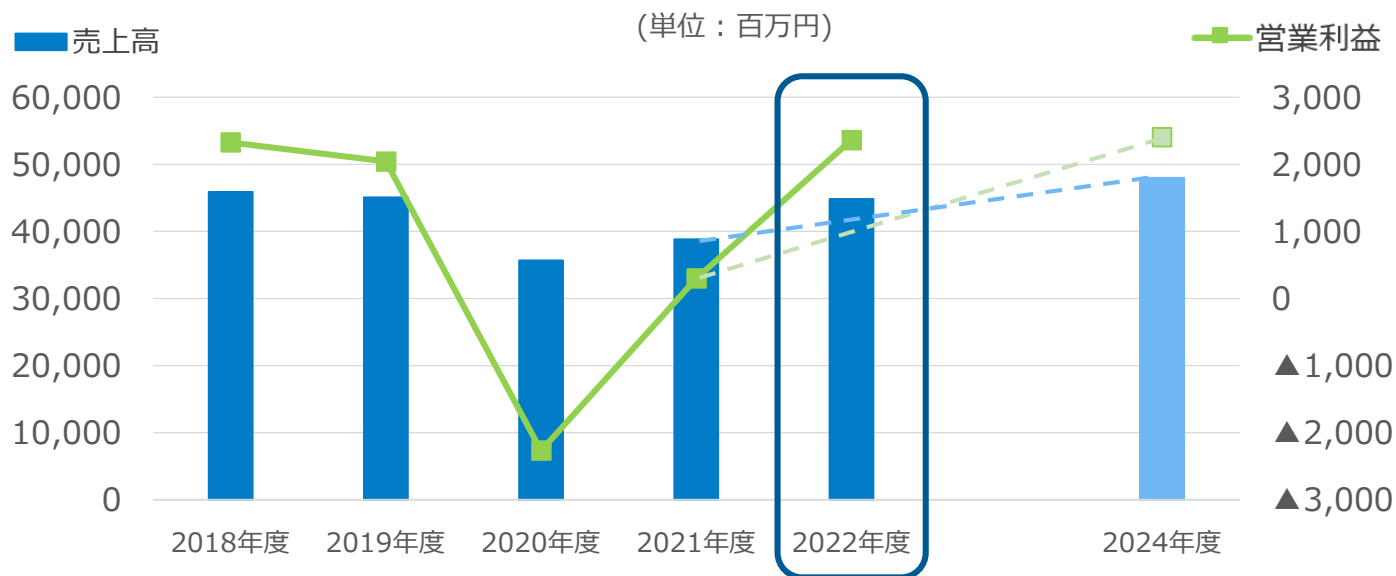
2021/3期

2022/3期

2023/3期

\*FCF=営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー

# 中期経営計画（数値計画）との比較



## 2024年度目標

コロナ禍前と同水準の利益規模へ回復

**売上高 480億円**

**営業利益 24億円**

(単位：百万円)

	2018年度実績	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2024年度目標
売上高	45,889	45,076	35,669	38,814	44,820	48,000
営業利益	2,326	2,043	▲2,266	300	2,362	2,400
経常利益	2,567	2,224	▲1,314	1,079	2,622	2,500
親会社株主に帰属する当期純利益	1,749	993	▲2,167	2,137	1,766	1,700
経常利益率	5.6%	4.9%	▲3.7%	2.8%	5.9%	5.2%

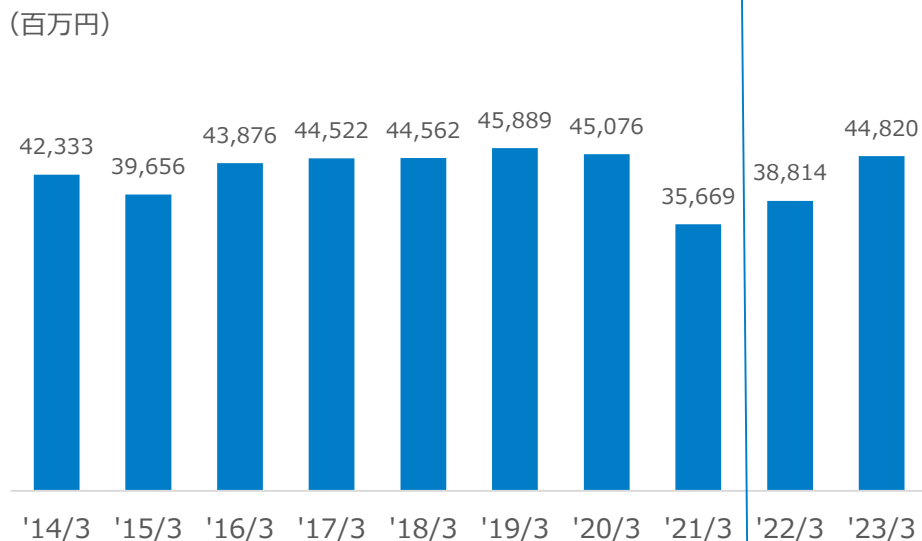
「収益認識に関する会計基準」を2021年度より適用。なお、2020年度以前の連結会計年度については、新たな表示方法による組替えを行っていない。



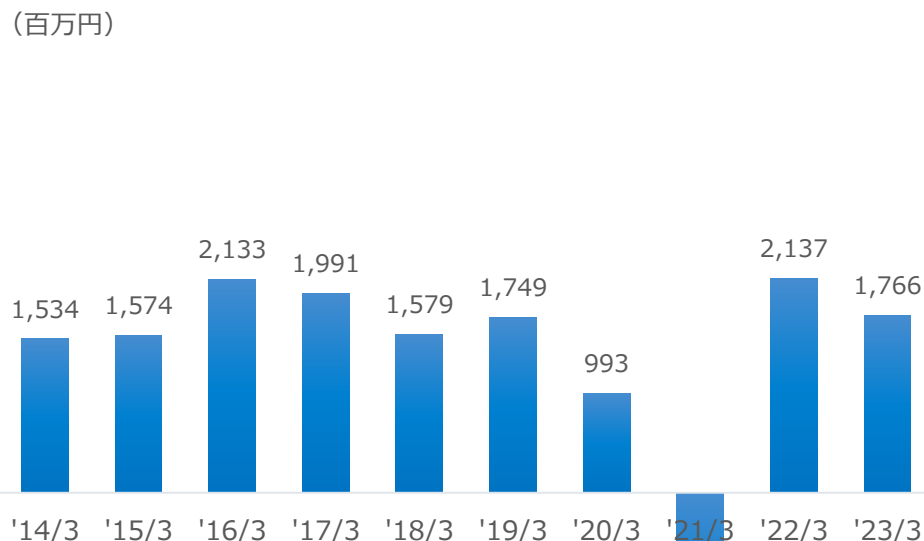
売上高ではコロナ禍前（2020/3期）の※92.5%まで回復（※「収益認識に関する会計基準」組替え前との比較）

利益では、2022/3期は姫路駅前の本社兼賃貸ビルを売却したことにより当期利益で黒字化。2023/3期は業績が大きく改善し、営業利益で黒字化転換

売上高



親会社株主に帰属する当期純利益



「収益認識に関する会計基準」を適用  
 '21/3期以前は、新たな表示方法による組替えを行っていない。

△2,167

# 財務ハイライト（連結経営指標の推移）

決算年月	単位	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期
売上高	(百万円)	45,889	45,076	35,669	38,814	<b>44,820</b>
経常損益	(百万円)	2,567	2,224	△1,314	1,079	<b>2,622</b>
当期純損益（親会社株主に帰属する）	(百万円)	1,749	993	△2,167	2,137	<b>1,766</b>
包括損益（親会社株主に帰属する）	(百万円)	1,039	455	△1,983	2,123	<b>2,102</b>
資本金	(百万円)	3,140	3,140	3,140	3,140	<b>3,140</b>
発行済株式総数	(千株)	6,172	6,172	6,172	6,172	<b>6,172</b>
純資産額	(百万円)	42,915	43,161	41,071	42,999	<b>44,907</b>
総資産額	(百万円)	56,638	56,287	57,142	58,944	<b>60,627</b>
1株当たり純資産額	(円)	7,121.77	7,162.92	6,816.37	7,137.87	<b>7,458.61</b>
1株当たり配当額	(円)	35.00	35.00	17.50	35.00	<b>40.00</b>
1株当たり当期純損益額	(円)	290.55	164.99	△359.94	354.90	<b>293.30</b>
自己資本比率	(%)	75.73	76.63	71.83	72.92	<b>74.07</b>
自己資本利益率	(%)	4.12	2.31	-	5.09	<b>4.02</b>
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	4,299	4,059	△815	3,949	<b>3,497</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△2,926	△2,473	△4,022	2,632	△ <b>3,315</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△775	△555	3,409	△1,429	△ <b>1,364</b>
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	6,212	7,244	5,815	10,968	<b>9,953</b>
従業員数 [外、平均臨時雇用者数]	(人)	3,281 [1,789]	3,293 [1,758]	3,158 [1,569]	3,040 [1,575]	<b>3,271</b> <b>[1,653]</b>



## 2024年3月期 業績予想

# 2024年3月期 業績予想

■ 売上高では自動車運送・レジャーサービス・貸切旅行を中心にコロナ禍からの需要回復を見込み増収

■ 営業利益では処遇改善や人材確保による人件費の増加で減益見込み

■ 中期経営計画（2022～2024年度）の2年目として、基本方針に則り、重点戦略を推し進める

(百万円)	2024年3月期 業績予想	2023年3月期 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	47,800	44,820	+2,980	+6.6%
営業利益	2,210	2,362	△152	△6.4%
経常利益	2,330	2,622	△292	△11.1%
売上高経常利益率	4.9%	5.9%	△1.0pt	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,490	1,766	△276	△15.6%
1株当たり当期純利益	247.45円	293.30円	△45.85円	△15.6%

## 基本方針

### 利益水準の回復と事業構造改革

グループ構想2030に向けて、コロナ禍前と同水準の利益規模への回復を目指すとともに、まちづくり・地域づくり企業へ転換するため、事業構造の改革を実行する

## 重点戦略

- 1 神戸エリアでの路線拡充、観光周遊バスの充実をはじめとする事業拡大
- 2 中山間地での地域に適した交通体系への転換と地域密着サービスの提供によるサステナブルな事業モデル確立
- 3 不動産事業の拡大
- 4 ノンコア、かつ不採算事業はグループ内再編による効率化・収益力強化、または売却・撤退
- 5 未来への成長投資の実行（人材、環境、デジタル分野）

## 新型コロナ「5類感染症」への移行に伴う経済の活性化はあるものの、コロナ禍前の水準には戻らないことを前提に、事業の構造改革を実行する



### 自動車運送

- ・神戸、大阪、淡路島での事業拡大
- ・「シティールート」「ポートルート」の利用促進策の実施
- ・人材確保による人件費の増加
- ・抑制していた新車購入による費用増



### 車両物販・整備

- ・グループ内新車購入による部材取付作業の増加
- ・車両部品の値上げ



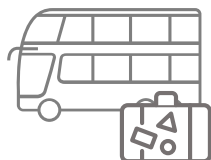
### 不動産

- ・昨年取得した収益物件の賃貸料増が寄与
- ・新規購入物件は昨年と同程度を見込む
- ・住宅部門は、昨年出展した住宅展示場のモデルハウスを軸とした事業エリアの拡大



### レジャーサービス

- ・新形態の更なる出店
- ・書籍・レンタルは1店舗閉鎖による影響を加味



### 旅行貸切

- ・インバウンドの本格的な回復による増収
- ・国内旅行需要の確実な取り込み
- ・ヘルスツーリズムのブランド化や着地型ツアーの充実など、新しい旅のかたちを構築



### その他

- ・施設利用者の回復
- ・指定管理施設の獲得増加
- ・ECサイトコンテンツの充実



# 株主還元

■ 年間配当金35.00円に創立95周年記念配当金<sup>※1</sup>5.00円を加えた 1株当たり40.00円を配当

■ 2024年3月期は、当社の配当政策の基本方針に基づき、年間35.00円の配当を予定

## 配当状況

(円)	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	前期差異
1株当たり当期純利益	290.55	164.99	△359.94	354.90	<b>293.30</b>	△61.60
1株当たり配当金	35.00	35.00	17.50	35.00	<sup>※1</sup> <b>40.00</b>	+5.00
<sup>※2</sup> 配当性向	12.0%	21.2%	—	9.9%	<b>13.6%</b>	+3.7pt

<sup>※2</sup>配当性向 = 配当金の支払い額/当期純利益

## 配当予想

(円)	2023/3期	2023/3期 (予想)	前期差異
1株当たり当期純利益	293.30	247.45	△45.85
1株当たり配当金	40.00	35.00	△5.00
配当性向	9.9%	7.1%	△2.8pt



## < 免責事項 >

---

当資料に記載されている内容のうち、過去の事実以外のものは、いくつかの前提に基づいた見通しであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先  
総務部 秘書広報課  
079-223-1241 (代表)  
ir@shinkibus.co.jp